



CSR

# 活動報告 [トピックス]

2017



AGC 旭硝子

## 編集方針

「CSR活動報告〔トピックス〕」は、AGCグループのCSR活動に関するさまざまなトピックスを紹介するレポートです。本レポートは、GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」に基づいた章立てで構成しています。AGCグループの果たす社会的責任への理解をより深めていただくために、「CSRホームページ」「CSR活動報告〔詳細版〕2017」と合わせてご覧ください。

## 発行日

2017年8月

## 目次

### 組織統治 ..... 2

「CSR活動の模範」としてタイの産業界をリード  
シンガポールのグリーンビルディングコンソーシアムと展示会へ参加  
日本政策投資銀行「DBJ BCM格付」で最高ランクを取得

### 人権と労働 ..... 5

過去の失敗から学ぶ安全施策を展開  
「安全実技研修のアジアへの展開」でレスポンシブル・ケア優秀賞を受賞  
中国における安全衛生管理活動を展開  
従業員のストレスケアプログラムを積極的に推進  
「労働環境および労使関係職場賞」を13年連続受賞  
化学物質管理体制の構築  
スキルネットワーク活動の一環としてプラントエンジニアリングスキルをタイで共有  
社会的責任に関する取り組みが認められ「Social Responsibility Award」を受賞

### 社会 ..... 10

地域社会の安全対策に貢献する「ガラスパワーキャンペーン」を展開  
コミュニティ活動支援を通して地元子どもたちや住民を支援  
タイ発展プログラムで美術学生を支援  
現地子どもたちや学生の成長をサポートする活動を推進  
3社共同による地域の小学生や高齢者への社会貢献活動を継続  
持続可能な社会に向けて植林活動を推進  
サプライヤーや地域社会と協働で、植樹活動を支援  
森林ボランティア活動を継続  
お取引先様に対する満足度調査の実施

### 環境 ..... 16

脱硝技術を現地のガラスメーカーに提供し、大気汚染問題の改善に貢献  
中国の環境改善活動を支援  
最新技術を導入して工場環境負荷を低減  
フッ化カルシウムのリサイクルを推進  
リターナブルパレットを工場間の輸送で使用  
トラック輸送から鉄道輸送への切り替えで環境負荷を低減  
欧州で太陽光パネルの設置を拡大  
水使用量削減と水質汚染防止を積極的に推進  
「間伐に寄与する紙」を積極的に使用  
従業員やその家族とともに環境活動を実施  
AGCガラス・ヨーロッパ社の本社がBREEAM認証で「Excellent」評価を取得  
AGCのフロートガラスがCradle to Cradleの製品規格に基づく認証を取得  
合わせガラス製品がCradle to Cradle認証（シルバー認定）を取得  
シンガポールのガラスメーカーとして初めて、11製品でグリーンビルディング製品認定を取得

# 組織

Organizational Governance

# 統治

[AGCフラットガラス・タイランド社]

「CSR活動の模範」としてタイの産業界をリード

AGCフラットガラス・タイランド社(略称AFT社)は、タイ工業省労働局(DIW)が優れたCSR活動を展開している企業に贈る「CSR-DIW継続賞」を、2016年に8年連続で受賞しました。

AFT社は、SET<sup>(※1)</sup>プログラムを継続的に実施しています。2009年にはこの取り組みが評価され、DIWからCSR-DIW認証<sup>(※2)</sup>を取得しました。また、同局のCSRを推進するCSR-DIWネットワーク委員にも選ばれおり、同委員会(タイ国内425工場が会員)を通じて、タイ国内のCSRの発展にも貢献しています。

- (※1) 「S」は「Safe Products through Safe Processes(安全なプロセスを通じた安全な製品)」、「E」は「Environment Preserving Products through Environmental Conservation Processes(環境保全のプロセスを通じた環境に優しい製品)」、「T」は「Transparent Products through Transparent Processes for Good Governance(優れたガバナンスのための透明性の高いプロセスを通じた透明性の高い製品)」の意味
- (※2) タイ工業省労働省が、ISO 26000に基づいて設定した認証制度



「CSR-DIW継続賞2016」の様子

[AGCグループ]

シンガポールのグリーンビルディングコンソーシアムと展示会へ参加

シンガポールのAGCアジアパシフィック社は、2014年からPre-project Innovation Consortium(プレプロジェクトイノベーションコンソーシアム: PPIC)に参加しています。このコンソーシアムは、エネルギー効率に優れたビルの開発のほか、シンガポールのビル・建設業界関係者の連携を目的として、シンガポール政府によって設立されました。

また、東南アジア最大のグリーンビルディングに関する展示会「BEX ASIA」(シンガポール)へも毎年出展しており、エコガラスや耐久性のある塗料用樹脂をはじめ、環境配慮ビルディングに貢献する持続可能な製品や技術的なソリューションを幅広く紹介しています。

2017年には、世界グリーンビル協会のアジア太平洋地域ネットワークの地域設立パートナーとなり、地域でのグリーンビルディングに関連する活動に参加し、支援しています。



「BEX ASIA」の様子

[AGCグループ]

## 日本政策投資銀行「DBJ BCM格付」で最高ランクを取得

AGCグループは、日本政策投資銀行(DBJ)の「DBJ BCM(事業継続マネジメント)格付」において、2013年に最高ランクである「A」を取得しています。

「DBJ BCM格付」は、同行が開発した独自の評価システムに基づき、企業の防災への取り組みや危機事案発生後の戦略・体制など、企業の事業継続性を、総合的に評価する格付け制度です。AGCグループでは、事業継続計画(BCP)ガイドラインの策定、運用状況の監査、幹部社員を対象としたBCP訓練、サプライチェーンを含むBCMの取り組みなどが高く評価されました。

なお、2009年には、同行による「環境格付」で、最高ランクの評価に加え、特別表彰を受けています。



幹部社員を対象としたBCP訓練

# 人権と

Human Rights and Labor

# 労働

### [AGCグループ]

## 過去の失敗から学ぶ安全施策を展開

AGCグループは、過去の失敗事例を展示した施設「Faites Hall<sup>(注1)</sup>」を、グループ人材育成施設である「AGCモノづくり研修センター」内に設置しています。「Faites Hall」では、過去の労働災害、品質、研究開発に関する13の失敗事例を展示。失敗の本質を見出し、知識化された概念を積極的に共有・横展開することで、将来起こりえる失敗を未然に防ぐことを目的としています。

特に、労働災害の事例は、従業員の安全意識レベルを向上させる研修の中で、積極的に横展開し、労働災害発生リスクの低減につなげています。なお、これらの取り組みが評価され、2014年には、NPO法人リスクセンス研究会が主催する「リスクセンスフォーラム2014」において「Good Risk Sense Award 化学工業日報社賞」を受賞しています。

(注1) 「failure teaches success(失敗は成功の母)」の頭文字をとった造語



「Good Risk Sense Award」賞の盾

### [化学品カンパニー]

## 「安全実技研修のアジアへの展開」でレスポンシブル・ケア優秀賞を受賞

化学品カンパニーでは、国内の主要工場で実施してきた安全実技教育をアジアへも横展開しました。中でも、千葉工場で実施した安全実技をインドネシアのアサヒマス・ケミカルに展開したことは、インドネシアにおける独自の安全文化の形成に大きく寄与しています。

これら一連の活動が評価され、2015年5月に第9回日本化学工業協会 レスポンシブル・ケア賞優秀賞を受賞しました。一連の活動によって、工場全員の安全意識が飛躍的に高まっており、仕事への取り組み姿勢も変わっています。現在、研修センターを地域や近隣他社に開放することで地域共生にも大いに貢献しています。



授賞式の様子

### [AGCグループ(中国)]

## 中国における安全衛生管理活動を展開

AGCグループでは、中国における部門横断的ネットワーク活動で安全衛生管理に取り組んでいます。

2014年に活動を開始し、現在では中国国内のガラス、電子、セラミックスの各グループ会社の安全管理を担当する従業員が参加しています。活動では、各社の重篤災害撲滅への取り組みを共有するほか、グループディスカッションを実施し、課題や好事例の共有を図っています。



参加者全員での記念撮影

### [AGCオートモーティブ・ヨーロッパ社]

## 従業員のストレスケアプログラムを積極的に推進

AGCオートモーティブ・ヨーロッパ社では、従業員のストレスケアをサポートするための管理職向けプログラム「Well-Being@AGC」を2013年から実施しています。同プログラムは、専門家の指導のもとで行っています。

また、職場での心理社会的リスクを特定するために、心理学者の協力のもとで350名以上を対象とした調査も実施しています。プログラムが非常に効果的であることから、現在、工場や欧州内のグループ会社へも適用を拡大しています。

さらに、職場の健全性に関する方針を策定し、方針に基づいて取り組みを推進する委員会を設置しています。また、「警戒ネットワーク」も設置しており、そのメンバーは、困難な状況にある従業員とのつながりを維持しながら、従業員と上司が直面している課題を解消できるよう直接的なサポートを提供しています。





[AGCオートモーティブ・タイランド社]

## 「労働環境および労使関係職場賞」を13年連続受賞

タイのAGCオートモーティブ・タイランド社(略称AATH社)は、2016年に「労働環境および労使関係職場賞」を受賞しました。これはタイ労働省が模範的な労使関係と福祉の体制を確立している企業に贈るもので、AATH社は13年連続での受賞となります。

同賞は、タイ全土から毎年1,000社以上がエントリーしているもので、審査は、政府が各社に派遣する担当者による、経営層、従業員へのインタビューなどを通じて行われます。2016年は、経営層と従業員が良好な関係を維持しながら、一致団結して事業の発展に取り組んでいるAATH社の姿が評価され、受賞にいたしました。なお、AATH社があるチョンブリ県では、AATH社を含む2社が13年連続で受賞しています。



AATH社長(当時)の矢島さん(向かって左)と、AATH従業員代表のワタナボルさん(中央)

[AGCグループ]

## 化学物質管理体制の構築

AGCグループでは、各事業所で使用する化学物質の管理レベルの向上に努めています。

化学物質のリスクアセスメントを実施するにあたっては、GHS(化学品の分類および表示に関する世界調和システム、Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals)に基づく、グローバルに適用できるグループ独自の評価方法を用いています。

また、管理者に向けて定期的に研修を実施し、各製造拠点をはじめとするグループ全体の管理レベルの向上に取り組んでいます。



化学物質リスクアセスメント研修の様子

### [AGCグループ(タイ)]

## スキルネットワーク活動の一環としてプラントエンジニアリングスキルをタイで共有

AGCグループでは、部門横断的ネットワーク活動のグローバル展開を進めています。中国での安全管理会議開催に続き、2015年からは、タイにおいて「プラントエンジニアリングスキル」の共有を開始しました。

現在は、タイ国内にあるガラスや電子、化学品事業のグループ会社の従業員が「共通するスキル」を軸に集まり、知識やスキルを互いに高め合うために、勉強会などを定期的で開催しています。このように事業の枠を超えて集まることで、新たな課題の発見や、その解決につながっています。



勉強会参加者で記念撮影

### [AGCフラットガラス・チェコ社]

## 社会的責任に関する取り組みが認められ「Social Responsibility Award」を受賞

チェコ共和国のAGCフラットガラス・チェコ社(略称AFCZ社)は、労働者の人権保護に関する国際規格SA 8000<sup>(注1)</sup>を、2011年5月に取得し、2014年には認証を更新しました。SA 8000は、児童労働や強制労働を禁止しているほか、労働者の健康と安全、報酬などを規定しており、AFCZ社では同規格に基づく健全な経営の実現を目指しています。

また、2015年には、Regional office of Ústí(ウースチー地域事務局)、Economic and Social Council of the Ústí Region(ウースチー地域経済社会理事会)、Quality Council of the Czech Republic(チェコ共和国品質協議会)による「Social Responsibility Award」にも選定されました。同賞は、法的要件の範囲を超えて従業員を保護し、地域の発展に貢献している企業に授与されるものです。AFCZ社はこれまでに地域の優良雇用主として表彰されているほか、チェコ共和国国内で3位となる優良雇用主としても選ばれています。

(注1) 米国のCSR評価機関であるソーシャル・アカウンタビリティ・インターナショナル(SAI)が策定した規格。企業は第三者機関の審査を受け、規格に適合すると認証を取得できる。



SA 8000認証状

# 社会

Society

[AGC旭硝子]

## 地域社会の安全対策に貢献する「ガラスパワーキャンペーン」を展開

AGC旭硝子は、2005年から、地震、突風、台風などの自然災害発生時に効果のある防災安全ガラスを自治体へ寄贈し、地域の安全対策を推進する「ガラスパワーキャンペーン」を実施しています。これまで36の自治体へ防災安全ガラスの寄贈をしてきました。

寄贈した防災安全ガラスは、災害時に避難所となる学校の体育館などを安全に整備するために利用されています。

2016年度は、南海トラフ地震などが懸念される高知市への支援活動として、高知市立横浜中学校を対象に体育館の窓ガラス365枚約250m<sup>2</sup>が防災安全ガラス(=合わせガラス)に交換され、台風や竜巻などの突風時も安全性が高まりました。



岡崎 高知市長様 (右) と  
AGC旭硝子ビルディング・産業ガラスカンパニー アジア事業本部  
新井日本事業部長 (左)

[AGCフラットガラス・クリン社/AGCボーグラスワークス社]

## コミュニティ活動支援を通して地元の子どもたちや住民を支援

ロシアのAGCフラットガラス・クリン社では、地元であるクリン市の病院や学校をサンタクロースが訪問するイベントを5年前から支援しています。イベントでは、新年を祝う仮装行列も催され、クリン市と周辺の地域から、毎年20,000人以上が参加します。

イベントに先立ち、9月1日の「知識の日」の前夜、AGCフラットガラス・クリン社は、クリン地区にある3つの幼稚園と1つの学校に断熱ガラスを寄付しています。また、イベントの一環として、AGCボーグラスワークス社とAGCフラットガラス・クリン社両社の従業員で構成するサッカーチームによる募金も実施しています。



Ded Moroz<sup>(注1)</sup>の家を訪問するクリンの子どもたち  
(注1) スラブ語でサンタクロースの意味



ロシアのAGCサッカーチーム

[AGCフラットガラス・タイランド社]

## タイ発展プログラムで美術学生を支援

AGCフラットガラス・タイランド社では、芸術、タイ式マッサージ、音楽の分野におけるスキル開発活動を通じて、経済的に困窮している美術学生の支援を進めています。この取り組みでは、学習機会を提供しているほか、タイ工業連盟、Local Wisdom Communities(ローカルウィズダムコミュニティーズ)、社会に貢献する一般ボランティアのメンバー、AGC Gアンバサダー(「G」は「good」の意味)と呼ばれるAGCの従業員などが参加するボランティア活動を行っています。また、絵画の販売、マッサージの提供、演奏会の開催を通じて、学生が教育資金を獲得できるようサポートしています。

2015年からは、第1世代が次の世代を指導することで教育の機会を拡大させる新たな支援活動「Successor Development Project」にも取り組んでいます。また、同じくタイにあるAGCケミカルズ・タイランド社(ATCH社)、AGCオートモーティブ・タイランド社(AATH社)、AGCテクノロジーソリューションズ・タイランド社とともに、学生の芸術、マッサージ、音楽の才能を高めるだけでなく、リーダーシップや企業家精神を育成する取り組みを開始するなど、より実践的なスキルの習得にも貢献しています。

[AGCディスプレイガラス台湾社]

## 現地の子どもたちや学生の成長をサポートする活動を推進

AGCディスプレイガラス台湾社は、創業10周年を迎えた2010年から、児童養護施設「雲林家庭扶助センター」への寄付と従業員によるボランティア活動を継続しています。

また、2014年からは、日台産業界で活躍できる人材の育成を目的に、台湾の大学生を対象とした「AGC日本語プレゼンテーションコンテスト」を開催しています。毎年、1つの共通テーマについて、参加する学生が日本語でプレゼンテーションを行うもので、プレゼンテーションや日本語能力の向上につなげています。

さらに2015年には、創業15周年目を記念し、地域社会への貢献として、地元である雲林県の小学生を対象にした絵画コンテストを開催しました。非常に好評を博したことから、2016年以降も継続的に開催し、地域との交流を深めています。



指導スキル開発のためのArt Successor Project



雲林県の絵画コンテストの参加者

[旭硝子ファインテクノ韓国社/韓旭テクノグラス社/旭PDグラス韓国社]

## 3社共同による地域の小学生や高齢者への社会貢献活動を継続

旭硝子ファインテクノ韓国社、韓旭テクノグラス社、旭PDグラス韓国社は、3社で共同社会貢献活動を実施しています。

2010年以降、子どもたちの成長を支援する目的で、小学校3校へ毎年図書を贈呈しています。また、2011年からは、読書感想文コンテストも併せて開催しています。コンテストは、児童作家の方に選考していただくもので、大賞及び最優秀賞を受賞した子どもたちへは、奨学金を支給しています。

なお、これらの活動に加え、3社の従業員が、手作りの越冬用キムチを、1人暮らしの高齢者や経済的に恵まれない子どもたちへ贈る「愛のキムチ」活動も2010年から継続しています。



読書感想文コンテストに参加した子どもたち



読書感想文コンテストの様子

[AGCフラットガラス・タイランド社]

## 持続可能な社会に向けて植林活動を推進

タイのAGCフラットガラス・タイランド社(略称AFT社)は、自らがエネルギー多消費型産業に属しているという認識から、生物多様性保全や地球温暖化防止に貢献する植林活動を2003年から実施しています。

AFT社では、地域社会の生物多様性保全や緑化への取り組みを促進するためには、植物そのものの価値を伝えることが重要であると考え、工場のあるラヨン県ジャムラン地域の在来種を特集したハーブの本を作成しています。また、2015年と2016年には、タイに拠点を置くAGCケミカルズ・タイランド社、AGCオートモーティブ・タイランド社、AGCテクノロジーソリューションズ・タイランド社の3社と共同で、チョンブリにあるSuanpakhaocha-ang Schoolに2つのハーブ園を開園しました。さらに、2016年と2017年には、大学講師の指導のもとで学生がハーブに関する基礎知識を深めるための活動を実施したほか、学校のコミュニティにおけるハーブの有用性をハーブの専門家とともに学びました。



ハーブ園

[アサヒマス板硝子社]

## サプライヤーや地域社会と協働で、植樹活動を支援

インドネシアのアサヒマス板硝子社(略称AMG社)は、環境保護の推進と地域社会との共生という自社のCSR方針に沿い、インドネシアの中部ジャワ州にある鉱山村で食用果実リュウガンの植樹プログラムを実施しています。AMG社は、このプログラムで村内にある長石のサプライヤーと連携して植樹しているほか、理論と実践の両面から、正しい植樹の方法を地域の人々に指導しています。

AMG社は今後も地域の環境保護に貢献しながら、地域の人々が収穫・販売により所得を増やせるよう支援を継続していく予定です。



植樹イベントの参加者

[AGCグループ(日本)]

## 森林ボランティア活動を継続

AGCグループ(日本)では、森林保全の大切さや生物多様性への意識を高めることなどを目的として、従業員やその家族などが参加する「森林ボランティア活動」を実施し、間伐<sup>(注1)</sup>や森林整備作業などを行っています。

旭硝子千葉工場勤務の従業員およびOBが結成した「AGC里山の会」は、2011年に千葉県市原市の河川愛護団体に登録して活動しています。

また、AGCエンジニアリング社では、2009年の創立50周年を機に、「社会・環境貢献活動宣言」を定め、継続的な里山保全活動を実施しています。市原市にある文化の森で年4回実施する里山保全活動には、有志社員および家族が参加。記念樹周りの下草刈りを行いながら、地域との共生や自然環境意識の向上、参加者同士の親睦を図っています。

(注1) 間伐作業は、密集して植林した苗木が生長していく間に、曲がったものや弱くなったものを切り倒して、間引く作業です。太陽の光を森の奥まで届くようにし、残った木々の健やかな生長を促進するために行われるものです。



「AGC里山の会」のメンバーならびにAGCグループ社員とその家族



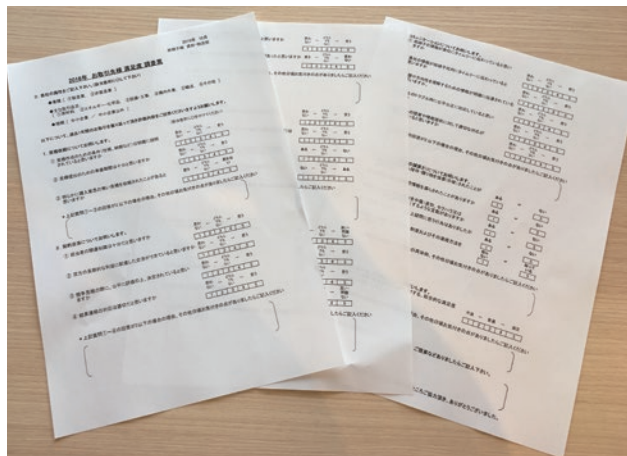
文化の森での里山保全活動に参加したメンバー

[AGC旭硝子]

## お取引先様に対する満足度調査の実施

AGC旭硝子は、お取引先の皆様と、より良い製品づくりを目指すパートナーとして共存共栄を図り、信頼関係を高めていくことを目的として、2008年から主要お取引先様を対象にアンケートによる満足度調査を実施しています。

匿名性が保たれて運営されていることが認知されるようになり、忌憚のない意見をお寄せいただいています。毎年約200社を対象に満足度調査を実施し、調査結果は回答いただいたお取引先の皆様や当社の関係者と共有しています。



お取引先様を対象としたアンケート



# 環境

Environmental

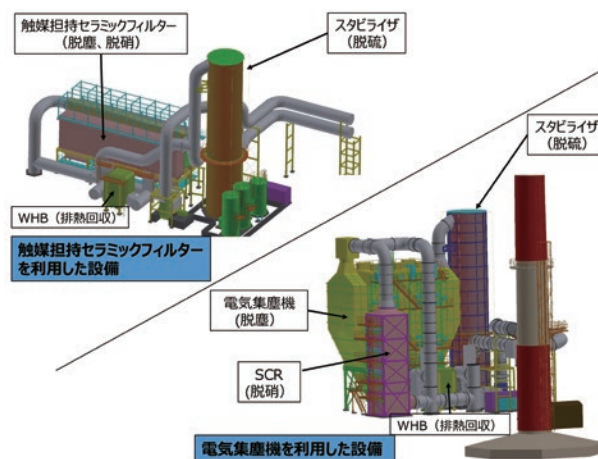
## [AGCグループ]

### 脱硝技術を現地のガラスメーカーに提供し、大気汚染問題の改善に貢献

中国・環境保護省は、大気汚染問題の改善のために、2014年4月から、北京市、天津市、河北省のガラス製造拠点に対して、脱硝、脱硝、除塵の設備設置、ならびに同設備のオンライン監視システムの導入を義務付けています。

AGCグループでは、現地のエンジニアリング会社と協力し、自社の硝子溶解炉排ガス特有の脱硝技術を現地のガラスメーカーに提供し、大気汚染問題の改善に貢献しています。

AGCグループの排煙脱硝技術は、自社の拠点で長期継続運転の実績があることや、不純物の多い低品質の重油を使っているような溶解炉にも対応できること、データの遠隔監視が可能なこと、さらにはアフターケア体制を整備していることが高く評価され、導入が進んでいます。



触媒担持セラミックフィルターを利用した設備

## [AGCチャイナ]

### 中国の環境改善活動を支援

AGCチャイナ(略称AGCH社)では、中国における環境改善活動の支援に取り組んでいます。2015年、中国科学院上海高等学院(SARI)、同濟綠色建築協会(TGBC)とAGCH社は「Green City, Better Life」セミナーを共同主催し、パネル展示などでAGCグループの各事業分野から40以上の製品を紹介しました。

また、日本の経済産業省、日中経済協会、中国国家発展改革委員会、中国商務部が東京で開催する「日中省エネルギー・環境総合フォーラム」に、昨年に続き参加し、AGCH社は「中国ガラス業界における省電力事業の実施」と題してガラス製造ラインの省エネに関する事例を発表しました。中国の省エネ環境事業への協力を表明し、中国のパートナー企業と協力し、中国ガラス業界の省エネ事業を支援しています。



「Green City, Better Life」セミナーの様子

### [AGCガラス・ブラジル社]

## 最新技術を導入して工場の環境負荷を低減

ブラジルでは、経済成長に伴いエネルギーや天然資源の消費が拡大しており、環境問題への対応が急務となっています。AGCガラス・ブラジル社では、2013年に操業を開始したガラスの生産工場に最新技術を導入し、生産工程における環境負荷の低減を目指しています。

具体的には、ガラス溶解炉に南アメリカ地域で最新の排煙処理設備を導入し、粒子状物質の排出量をブラジル環境省国家環境審議会(CONAMA)の規制値の約10分の1以下に、また、SOx、NOxの排出量も同基準値未満に抑えています。

また、揮発性有機化合物(VOC)の排出量を削減するため、コーティング工程から排出する有機化合物ガスをガラス溶解炉で燃焼させているほか、生産工程での水の使用量削減に貢献する冷却水の循環リサイクルシステムを導入しています。



ブラジル工場

### [化学品カンパニー]

## フッ化カルシウムのリサイクルを推進

化学品カンパニーは、フッ素系製品の原料であるフッ化カルシウム(蛍石)のリサイクルと回収に取り組んでいます。

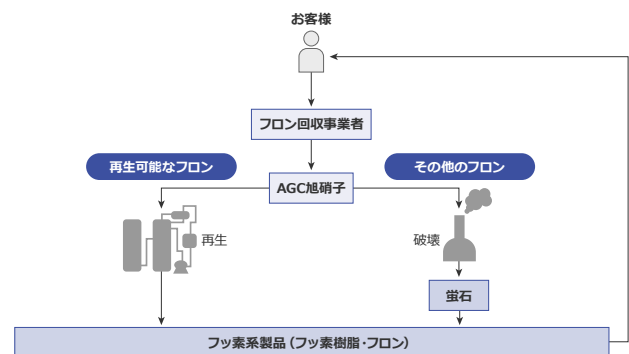
フッ化カルシウムは、埋蔵量と産出国が限られており、日本では中国からの輸入に頼っています。

そのため、化学品カンパニーでは、自社の製造工程の廃液に含まれるフッ化カルシウム、さらにお客様がフッ酸を使用した後の排水処理工程で発生する廃フッ化カルシウムを回収し再利用<sup>(注1)</sup>しています。

また、千葉工場では、お客様が使用したフロン類をフロン類回収事業者様を通じて回収し、破壊工程で発生するフッ化カルシウムを回収出して、原料として再利用しています。

なお、2016年は、CO<sub>2</sub>換算で約168万トン(2015年は約199万トン)のフロン類を回収・破壊しています。

(注1) 平成26年度「資源循環技術・システム表彰」の最高賞である「経済産業大臣賞」を受賞。同賞は、一般社団法人産業環境管理協会による表彰制度で、廃棄物の発生抑制(リデュース)、使用済み物品の再使用(リユース)、再生資源の有効活用(リサイクル)に寄与する、高度な技術または先進的なシステムを有する事業や取り組みが毎年表彰される。



フロン類回収リサイクルの流れ

### [AGCグループ(日本・アジア)]

## リターナブルパレットを工場間の輸送で使用

AGCグループ(日本・アジア)は、自動車用ガラスの素(もと)板の工場間輸送に、繰り返し使えるリターナブルパレット(「シンプルパレット」)を使用しています。これは、従来使用していた木箱に変わる梱包材で、木材使用の削減と生物多様性の保全のために、AGCグループが独自に開発したパレットです。

2000年の導入以来、使用地域は国内から中国や東南アジア全域にまで拡大し、現在は、特殊な形状の製品を除き、自動車用ガラスのほぼ全製品で「シンプルパレット」を使用しています。また、2015年のAGCグループ間輸送(日本からの輸出および日本への輸入)における使用比率実績は98.5%でした。



AGCグループが独自に開発したシンプルパレット



空容器はコンパクトに折り畳んで積載

### [AGCガラス・ヨーロッパ社]

## トラック輸送から鉄道輸送への切り替えで環境負荷を低減

AGCガラス・ヨーロッパ社は、環境への負荷を低減するために、ガラスの原料となるケイ砂やソーダ灰の運搬をトラックから鉄道に切り替えました。フランスのブツワ工場で、工場内に荷降駅を新設し、2014年2月から鉄道で運搬しています。

この取り組みの結果、年間に4,000回のトラック輸送が、わずか77回の鉄道輸送に削減でき、CO<sub>2</sub>排出量は約250トン削減することができました。また、工場から排出されるばい塵も低減しています。さらに、交通量の減少により周辺の道路環境がより安全になりました。ブツワ工場のこれらの取り組みは、2014年にフランスの環境パフォーマンスに関する表彰を受けています。



ブツワ工場内の鉄道

### [AGCグループ]

## 欧州で太陽光パネルの設置を拡大

AGCガラス・ヨーロッパ社では、自社の工場やビルへの太陽光(PV)パネルの設置を進めています。オスターヴェーディングン工場(ドイツ、年間発電量10 MWh)とクネオ工場(イタリア、同4,151 MWh)でそれぞれ2009年と2010年に最初のPVパネルを設置して以降、2011年のゼーブルージュ(ベルギー、同507 MWh)、2012年のモル(ベルギー、同260 MWh)など、他拠点でもPVプロジェクトを開始しています。2013年にはイタリアのロカセカ(同1,114 MWh)、ベルギーのフルーラス(同250 MWh)とムステイエ(同233 MWh)にも設置し、現在、これらの太陽光発電設備全体で年間平均約6,544 MWhを発電しています。

また、2013年にはベルギーのAGCヨーロッパ社が本社の新社屋屋根に約900枚のPVパネルを設置しました。年間の発電量は153 MWhで、暖房、冷却、照明に使用するエネルギーが相殺されています。



クネオ工場の太陽光パネル

### [AGCガラス・ヨーロッパ社]

## 水使用量削減と水質汚染防止を積極的に推進

AGCガラス・ヨーロッパ社(略称AGEU社)では、漏水対策や水のリユース・リサイクルなど、工場における水使用量の削減に取り組んでいます。その結果、1998年から水使用量を71%削減し、2016年の総使用量は約510万m<sup>3</sup>となりました。

また、AGEU社では、工場で使用する産業用水は、飲料水用途ではない水源から得ることとし、水使用量を極力抑えるため、その90%以上を循環系装置内の冷却システムで使用しています。

さらに、製造工程で発生する金属など、排水に含まれる汚染物質の削減にも努めています。AGEU社の工場では、排水処理装置を設置しているほか、新しいミラーガラスの製造工程においては、有害物質の使用量削減や代替物質の使用によって、排水に含まれる汚染物質を95%削減することに成功しています。



雨水回収システム

## [AGCグループ(日本)]

### 「間伐に寄与する紙」を積極的に使用

AGCグループは、「生物多様性をも含む自然環境への影響に配慮する」という環境基本方針に基づき、「間伐に寄与する紙」を積極的に使用しています。具体的には、環境NPOオフィス町内会の活動「森の町内会」を通じて、間伐促進費を価格に付加した「間伐に寄与する紙」を購入・使用し、健全な森林の回復に必要な間伐を支援しています。

2016年は、AGCレポートなどの外部コミュニケーション、グループ内冊子、また名刺などを中心に、約4トン分に使用しました。また、これまでの使用量実績は計180トン強となり、間伐面積に換算すると約13ha、東京ドーム約3個分の広さに相当します。



AGCレポート 2017

## [AGCグループ(日本)]

### 従業員やその家族とともに環境活動を実施

AGCグループでは、従業員やその家族が日常生活やボランティアを通じて気軽に環境活動に取り組める仕組み、「AGC ECO CLUB」を2011年に立ち上げ、活動しています。

「AGC ECO CLUB」では、環境活動実績のある従業員をクラブ員として募集し、拠点で実施された環境ボランティア活動や、家庭での省エネルギー活動などをAGC ECO CLUBのウェブサイトで紹介しています。

また、本社の自動販売機を利用したマッチングギフト<sup>(注1)</sup>も実施しています。寄付金は、東日本大震災による被害を受けた宮城県名取市の海岸林再生に取り組んでいるNGO団体に寄贈しています。このほか、AGCグループ(日本)で収集したベルマークを、途上国の植林活動をサポートするNGO団体に毎年寄付しています。

本社の地元千代田区から、従業員やその家族の日常活動を通じてソフト面での環境活動が評価され、2017年2月に温暖化配慮行動「特別賞」を受賞しました。

<sup>(注1)</sup> 企業や団体などが社会貢献のために寄付や義捐金を募る際、寄せられた金額に対して企業側が金額を上乗せした上で寄付する取り組み



2017年温暖化配慮行動「特別賞」を受賞

[AGCガラス・ヨーロッパ社]

## AGCガラス・ヨーロッパ社の本社がBREEAM認証で「Excellent」評価を取得

AGCガラス・ヨーロッパ社(略称AGEU社)の本社ビル(ベルギー)は、「nearly-zero energy building」という、ビルのエネルギー消費がほぼゼロとなる構造を採用しています。必要なエネルギーについても、再生可能エネルギーでまかっています。

このビルには、年間約200,000 kWhを発電する約900枚の太陽光発電パネルを屋根に据え付けており、太陽光によるエネルギーをオフィスで使用しています。また、ビル内照明には自然光を、冷暖房には地熱を活用し、オフィスでの消費エネルギーを削減しています。さらに、トイレなどの衛生設備や屋外清掃、庭園管理での雨水利用を進めているほか、ビルの建設にはPEFC(森林認証システム)認証適用木材のみを使用し、自生種を生かした庭園づくりや生物多様性プログラムによる庭園の調査を実施するなど、環境に配慮しています。

これらの特長が評価され、AGEU社のビルはエネルギーや水を含めた資源の観点から建築物の環境性能を総合的に評価するシステム「BREEAM(Building Research Environmental Assessment Method)」の認証を取得。2015年には建設後評価を通過し、「Excellent」評価で最終認証を取得しています。



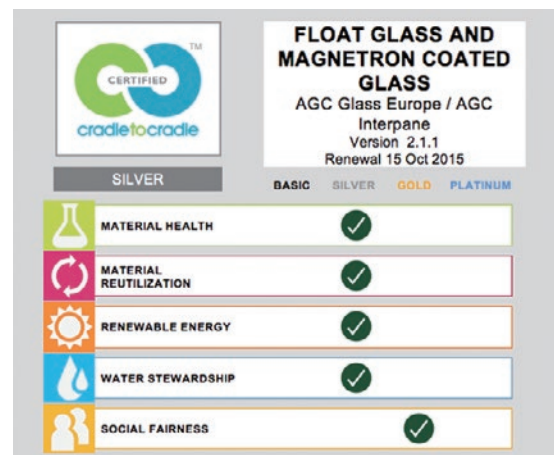
AGCガラス・ヨーロッパの本社ビル

[AGCガラス・ヨーロッパ社]

## AGCのフロートガラスがCradle to Cradleの製品規格に基づく認証を取得

AGCガラス・ヨーロッパ社(略称AGEU社)のフロートガラスが2015年にCradle to Cradle(C2C)認証のシルバー認定を取得しました。これは、C2C認証カテゴリーの1つである「適正な水の管理」について、優れた実績が認められたものです。

AGEU社は、水資源保護のために適正な水の管理に関するルールやガイドラインを策定していること、水不足などの地域の生態系のリスクを軽減する取り組みを実施していることなどが高く評価されました。



AGEUが取得したCradle to Cradle認証

## [AGCガラス・ヨーロッパ社]

### 合わせガラス製品がCradle to Cradle認証(シルバー認定)を取得

2013年、AGCガラス・ヨーロッパ社(略称AGEU社)の合わせガラス製品「Stratobel」と「Stratophone」が、Cradle to Cradle(C2C)認証のシルバー認定を取得しました。C2C認証プログラムは、安全かつ健全な原材料の使用・再利用、再生可能エネルギーの利用、適正な水の管理、その他社会的責任の実践が図られている製品を評価・認証するプログラムです。AGEU社は、2010年に板ガラスとコーティングガラスで初めてC2C認証を受け、欧州ガラスメーカーの中で初めて環境関連の認証を取得しました。2013年は、すでにシルバー認証を取得している板ガラス、コーティングガラス、装飾ガラスについても認定を再更新しています。

この認証を取得した製品には、LEED(グリーンビルディング認証)の格付けシステムの認証クレジットも付与され、建築物の環境格付けの向上を目指すお客様に貢献しています。



「Stratobel」と「Stratophone」のC2C認証

## [AGアジア・パシフィック社]

### [シンガポール]シンガポールのガラスメーカーとして初めて、11製品でグリーンビルディング製品認定を取得

AGCアジア・パシフィック社は、シンガポールグリーンビルディング評議会によるラベリングスキーム「SGBP製品認定」を、2013年にガラスメーカーとして初めて取得しました。この内装ガラスの認定は2017年に更新され、2013年よりも高い評価を受けました。

この認定は、「エネルギー効率」「水効率」「資源効率」「健康・環境保護」「その他の環境上の特徴」の分野で建材の環境性能を評価するものです。なお、SGBPラベルのある製品を利用する建物は、シンガポールの建築評価制度「グリーンマーク」でポイントを獲得することができます。



SGBPの認証書